

平成22年度 自己評価書・学校関係者評価書(様式)

【別紙1-2】

鈴鹿市立合川小学校(園)		NO.			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力保障	授業改革 授業研究 ◆国語科授業研究を行う。「視写」を通して「読む」力をつける。 ①全学年が辞書の活用を図り、語彙力をつける。 ②音読を通し、頭の目覚ましスイッチを入れ、口の開け方や声の出し方など発表力をつけ、情景を想像した豊かな表現力をつける。 ◆「基礎基本の定着に向けて」の取り組み ①国・算は、期末テストありを使用。学期末に領域別に平均点を出す。 ②CRTを実施し、個人・学級の強みと弱みを分析する。	低・中・高で各1回実施 学年に応じて適宜 毎朝実施 国語・読解・言語 算数：数学的・表処・知理 4年生以上実施	・全学年で視写を取り入れた学習ができた。しかし、方法においては学年によってばらつきがあった。 ・辞書に親しむことができるようになってきた。 ・音読については、運動会やフェスティバルで発表するなど、日頃の成果がよく出ている。 ・CRT分析から、基礎的な学力が少しずつ上がってきていることが確認できた。	・読解力の向上に「視写」を取り入れた授業、これからも期待します。 ・現代っ子は「辞書」を見る機会がないと思われるので、活用方法をもとにしっかりと教育はよいと思います。 ・全校生徒の前で各人が発表できる機会を取り入れる工夫などよいと思います。	・児童一人ひとりの「読解力」を先生が把握することも大切では。 ・よく発表できた児童には、先生がみんなの前で「賞賛」してやることは大切。 ①特になし ②CRTの分析結果など、あまり重要視しなくても良いのではないかと。
	学習ボランティア活用 ◆学校支援地域本部事業の推進を図る。 ①水曜日放課の14:05~14:25の「赤丸学習タイム」で学習ボランティアを活用する。 ②読書の時間に読み聞かせボランティアを活用する。 ③学習ボランティアを活用し、基本的な学習内容の定着を図る。	各学年1~2人、月2回実施 年10回 週2~3回	・毎週実施の赤丸タイムが定着した。ボランティアさんは隔週だが、児童の様子もよく分かってもらえ、基礎学力定着の一助となっている。 ・児童は読み聞かせをとっても楽しみにしており、全学年集中して聞くことができた。 ・学生ボランティアさんの個別指導は、朝の学習として時間的な位置づけは児童達に浸透してきた。決められたとおりの学習内容を実施できない時期もあった。 ・家庭学習は、社会の予習をするために漢字や算数を入れられない日もあったが、おおむね決まった内容・パターンで実施できた。	・ボランティアさんとの学習は子どもたちも心待ちにしている大変良いことです。 ・学習ボランティア活動に対して各担任の先生の反応はどうか？ ・学生ボランティアの導入は効果があり、引き続き実践してもらいたいと思います。	・赤丸学習ボランティアも特定の人のみでなく、保護者にも参加してもらいたい。
	補充学習 ◆基礎基本を身につけ、自分に自信をもてる児童を育成する。 ①朝の学習(15分間)を実施する。 ②毎日の宿題に「音読」「国語」「算数」の3つに取り組む。 ③夏休みに補充学習・図書室開放・水泳教室実施。基礎基本の学力保障に取り組む。	毎日：音読・暗唱、月：算数、水・木：国語、火・金：読書 学年×15分 学習：5日以上 図書：15日以上	・朝の学習として時間的な位置づけは児童達に浸透してきた。決められたとおりの学習内容を実施できない時期もあった。 ・家庭学習は、社会の予習をするために漢字や算数を入れられない日もあったが、おおむね決まった内容・パターンで実施できた。	・毎日の積み重ねは大きな力になり生ますね。 ・計画通りにできるのは先生方の力量に寄るところが大であり、それを継続して行って欲しい。	
	キャリア教育(すずか夢工房・職業体験学習) ①生活科や総合的な学習の時間を活用し、地域の産業人の話を聞いたり、体験学習をしたりして、将来の夢について考える機会を設ける。 ②「すずか夢工房一達人に学ぶ」を活用して、夢を持つ意識の大切さの啓発を進める。	1~3年：校区めぐり 4年：環境教育 5年：米作り 6年：夢想国師 各学年：年間1~2回 全校：各学期1回	・地域の方の話を聞く機会が何度かあり、ボランティアや仕事の中身・動機・思いなどを知ることができた。 ・夢工房は、3学期に実施できない学年がほとんどで残念だったが、1・2学期にさまざまな出会いがありとても ・学年の特性によって積極的なコミュニケーションを図る機会に違いが出た。	・いろいろな方との出会いで子どもたちの夢が育っていつてくれることを願います。	・もっと地域の人々から、地元のことなどの話を聞く機会を設けてみてはどうか？(いろいろな職種の人など)
	外国語教育 ◆英語教育の指導法の研修をすすめ、楽しい授業づくりをめざす。 ①5、6年生で実施。	年間35時間。そのうち18時間アシスタント来校。	・事例検討会や支援会議を実施し、全職員が共通理解のもと、児童に対応できた。 ・授業だけでなく、給食や交流会を通してオアシス学級の理解を深められた。	・英語の楽しさがもてればいいですね。 ・いろいろなことにチャレンジすることはとても良いことだと思います。	
	特別支援教育 ◆個に応じた指導を充実させ、集団と共に成長する児童の育成を目指す。 ①巡回相談員の来校に合わせ、校内研修をすすめる。 ②コーディネーターが各学年を見回り、支援の必要な児童の把握を行うとともに、個別に支援する。 ③特別支援学級との交流を行う。	年2回 4・5年生の算数の授業に週2時間ずつ入る 各学年1回以上	・事例検討会や支援会議を実施し、全職員が共通理解のもと、児童に対応できた。 ・授業だけでなく、給食や交流会を通してオアシス学級の理解を深められた。	・互いに助け合っていくことができると良いです。	
	生徒指導 ◆基本的な生活習慣の定着を図るため、教職員一丸となって問題行動の未然防止に努める。 ①あいさつ運動の実施。 ②時間厳守の取り組み ③防犯ホイッスル・黄帽子の着用を徹底させる。 ④気になる児童の早期発見。必要に応じて一人ひとりに応じた対応を図る。 ⑤問題行動に対する組織対応を図り、保護者の信頼確保に努める。 ⑥ほげんだよりを発行していく。 ⑦心のサポーターの活用等、一人ひとりに寄り添い、指導・助言する。	児童会役員：毎月曜日 教職員：金堤橋で毎日 チャイム席達成率90%以上 着用率100% 欠席3日連続時、家庭訪問 報・連・相・確を100%実施 月一回程度	・年間を通して問題行動がほとんどなく、起こった時には早期解決できた。朝の打ち合わせや会議で報告がきちんとなされた。 ・防犯ホイッスルの着用率は100%に近いが、時々忘れてしまう児童がいる。 ・ほげんだよりは月1回、季節に応じた内容で出された。 ・児童数が少ないので、心のサポーターの方にも一人一人がよく理解されており、休み時間等を利用して相談することができた。	・少人数だから「一人ひとりを大切に、自分を大切に」この気持ちが子どもたちに伝わっていると思います。	・大きな声を出して「あいさつ」できないのは、どうしてか？「あいさつ」とは何か根本を教えるは？
人権教育 ◆部落問題・障がい者問題・多文化共生・いじめ・不登校等を取り巻く問題に対する取り組みを進める。 ①天栄中校区実践交流会を充実させる。 ②人間関係構築力の向上を図る。 ③人権研修の充実と教材開発。 ④「見守っていききたい子」の共通理解を図るため、話し合いの場を設定する。	1回は授業公開に参加する 縦割り班活動：月2回 低中高で年3回の授業公開、研修会への参加及び遺流学習 年2回	・人権フォーラムでは、身近な課題の話し合いで、実り多いものとなった。 ・中学校区の授業公開にはなかなか参加できなかった。 ・児童会を中心として縦割り班活動が充実しており、行事や業間など楽しいひとときを過ごせた。保護者からも温かみのある学校という感想が聞かれた。 ・実践向きな授業研究がなされ、身近	・縦割り班活動は、子どもたちにとって、思いやりなどが育つ良いことだと思います。続けて欲しいですね。	・大きな声を出して「あいさつ」できないのは、どうしてか？「あいさつ」とは何か根本を教えるは？ ・定期的に天中との交流など深める必要があると思います。	
保護者・地域との連携 ①保護者・地域に来校の機会を設ける。 ②PTA・地域行事への積極的参加 ③児童会・学校・学年だよりの発行 ④学校ホームページの更新に努める。	月1回 年間5回 月1回程度 行事報告等月2回程度	・学校だよりは、タイムリーに発行できていた。学年通信は、月1回は発行できた。 ・授業参観や集会など、月1回の来校は定着した。	・回覧による学校だよりで、子どもたちの様子が良くわかりました。 ・学校ホームページは、学校の情報を提供できるものであり、開かれた学校を示す一つでもあります。H22年度のホームページの行事内容数は17ぐらいであり、21年度と比べ半数以下で	・地区体育行事に体育担当者も出席し、学校との連携を図ることは必要だと思います。ので、今後も出席していただきたい。	